

体育・保健体育

【ICTを活用するポイント】児童生徒が課題を追究する中で、クラウド上から必要となる資料を選択し、実際の様子と比較等して、課題を解決していく授業。

子供の視点から

- ①自分が追究したい技の行い方について、見たい動きを必要に応じて繰り返し視聴したり、再生速度を調節したり、一時停止機能を使ったりして個に応じた方法で確認することができます。
- ②学習の振り返りをポートフォリオのようにクラウド上でまとめ、蓄積しておくことで自分の高まりを感じたり、過去の記録や全国の平均値等と比較して自己の課題を明確にしたりすることができます。

教材の視点から

- ①「掲示物や資料をみる」「大型テレビなどを用いて映像を一斉に視聴する」「資料から練習方法を選んだり、工夫したりする」などの追究方法が、タブレット端末を用いてクラウド上にある資料や付箋ツールなどのアプリを使うと、追究が今まで以上に深まることが期待されます。
- ②掲示物を見たり、映像を見る順番を待ったりすることがなくなり、今まで以上に運動時間を確保したり、認識を深めたりする時間が増え、より深く追究することが期待されます。

課題を発見し
意欲的に追究し
解決に向かう授業

問題解決の過程の視点から

(手本
の映像)



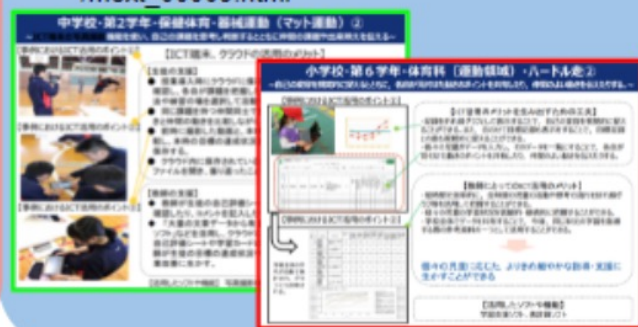
(実際の映像)



自分やチームの動きを客観的に認識することで、成果や課題を把握することができ、新たな課題をもったり、追究する意欲を高めたりすることができます。

StuDX Style (文部科学省より)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00009.html



実践報告 中学校第1学年「器械運動（マット運動）」

アップデートしよう

- ①一人一人に応じた学びの保障（自分の追究に合った資料の活用）
- ②手本となる動きと自分の動きを即時的に見比べる
- ③データの蓄積による自分の変容を確認しながらの振り返り

使用したアプリ

- ・付箋ツール
(課題の決め出し)
(振り返り)
- ・クラウドを活用した動画や資料の保存

本時のねらい

自分の動きと手本となる動きを見比べたり、友とアドバイスし合ったりしながら技のポイントを理解し、自分の動きを高めていくことができる。

導入

追究したい技の決定

学習課題をもとに本時追究したい技を決定する。
継続して取り組んできた技やもう少しでできそうな技を選び、資料を見て動きやポイントを確認する。 **写真①②**

展開

目指す姿との比較

出来映えを見たり、友と手本となる動きを見比べたりしながらアドバイスし合い、自分の課題を追究していく。 **写真③④⑤**

終末

自己の変容の確認

本時を振り返る。
技の高まりを主観的に数値化して評価したり、目標への到達度を確認したりしながら自己の変容を振り返る。また、新たな課題を見付ける。 **写真⑥**

★クラウドを活用して、手本となる動画や技のポイント等の資料を準備し、生徒がいつでも見られるようにしています。
★付箋ツールを活用して学んだことを蓄積し、いつでも振り返られるようにしています。



①

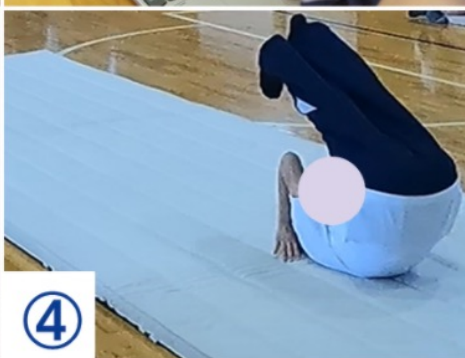


③

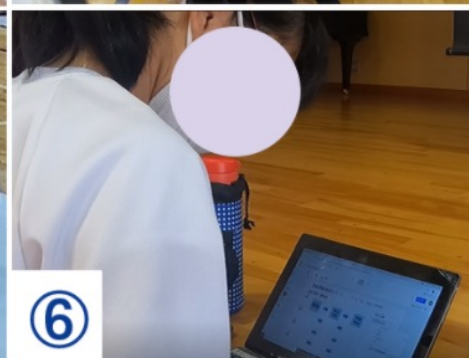
⑤



②



④



⑥

児童生徒の姿から

- ・〈単元序盤〉前時の自分の振り返りを見て、本時に自分が追究してみたい技を考えました。ある生徒は、クラウド上にある技の資料（動きをコマ切りにしてポイントが示されている静止画）を見たり、前時の学習カードのシートを見返して技の達成状況を確認したりして本時追究したい技を決め出していました。
- ・〈単元中盤〉グループの友と共に自分が追究してみたい技の動画や資料を見たり、友が行った試技の動画を見合ったりしてアドバイスをし合いました。友のアドバイスや手本となる動きとの比較から改善点や課題を見付ける姿がありました。（協働的な学びの場面）
- ・〈単元終盤〉付箋ツールを使って、自分の出来映えを数値化して達成状況を確認したり、振り返りをまとめたりして本時にできたことや次時の課題を明確にしました。また、今まで蓄積してきた前時までのシートを何度も見返して「倒立でつま先まで伸ばすことを意識したら前の時間よりもきれいにできるようになった」と技能の高まりを実感する姿も見られました。

授業者の先生から

- ・クラウドに動画などの資料を保存しておくことで生徒たちが見たいときにすぐに見ることができ、自分のペースで自分に合った学習活動をする事ができたと思います。
- ・生徒が映像や友からのアドバイスを蓄積することで、以前の自分の姿と比較したり、友からのアドバイスの履歴を基に、自身の技能が徐々に高まってきていることをすぐに実感できたり、次時の課題を明確にすることができました。

この事例のポイント

- ・一人一人のニーズに合わせた個別の動画視聴で、自分自身の試技と見本との見比べを可能にすることによって、ゴールイメージが明確になり、自身の課題を見出したり、解決の見通しをもったりすることができます。
- ・自分の試技の動画等を用いた学習過程の蓄積によって自分自身の変容や成長を捉えやすくなります。

